

## 事業群評価調書(平成28年度実施)

基本戦略名	2 交流を支える地域を創出する	事業群主管所属	事業群①:土木部都市計画課
施策名	(1) 時機を捉えた魅力あるまちなみの整備		事業群③:企画振興部まちづくり推進室
事業群名	① 新幹線開業に向けた駅周辺の整備	課(室)長名	事業群①:藤田 雅雄、事業群③:前川 謙介
事業群名	③ 県庁舎跡地整備の推進	事業群関係課(室)	

### 1. 計画等概要

【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)】					
《長崎県総合計画チャレンジ2020 本文》					
①長崎港周辺の魅力ある都市景観の形成を進めるとともに、長崎駅周辺ではJR長崎本線の高架化やデザイン指針を基に駅舎などの施設・公共空間のデザイン調整に取り組み、併せて、諫早駅や新大村駅(仮称)周辺では交通広場整備による交通結節機能の向上などに取り組みます。 ③交流人口の拡大に寄与するとともに駅周辺エリアや松が枝エリアとまちなかをつなぐ回遊の拠点となることを目指し、地元長崎市と連携しながら、長崎市のみならず長崎県全体にとって、最も良い活用策となるよう取り組みます。					
事業群指標	最終目標(H32)	基準値(H26)	実績(H27)	達成率	【進捗状況の分析】
①新幹線駅周辺整備の進捗状況(面積)	44%	3%	4%	—	①九州新幹線西九州ルートの開業を見据えた新幹線駅周辺整備が進められており、平成27年度は長崎駅周辺では移転補償、諫早駅周辺では自由通路及び駅前広場の設計、新大村駅周辺では整備にむけた都市計画決定を行い、計画通りに進んでいる。 ③総合計画期間内の平成32年度中の工事着手を目指し、平成27年度は、2月定例県議会において「広場」「交流・おもてなしの空間」「質の高い文化芸術ホール」の3つの方向性を中心に、駐車場・バスベイ等の5つの附帯機能も併せて検討を進めていくことを示した。
③県庁舎跡地活用に関する整備の推進	期間中の着手	—	—	—	
事業群の進捗状況		—			

【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)の分析】	
《取組項目及び現状と課題》	
<p>i) JR長崎本線連続立体交差事業及び新幹線駅周辺等における機能的な都市空間創出のための市街地開発事業等の促進(事業群①)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎駅は新幹線・在来線双方が乗り入れる日本唯一の頭端駅であり、海に開かれた駅としては、世界にも類を見ない特長を有している。</li> <li>・平成27年3月に策定した「長崎駅周辺エリアデザイン指針」を踏まえ、駅舎、駅前交通広場、多目的広場、街路等に関して、国際観光文化都市長崎の玄関口としてふさわしいデザインの基本的な考えを取りまとめた「長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画」を策定した。</li> <li>・平成27年度は、仮線切替工事が完了し、平成32年度の完成を目指す。</li> <li>・今後整備される長崎駅舎について、本計画を最大限具現化するため、鉄道事業者などと調整を行っていく。</li> <li>・駅周辺の魅力あるまちなみや機能的な都市空間を形成するため、土地区画整理事業や市街地再開発事業を促進し、関係市町との調整を行っていく。</li> </ul>	
<p>ii) 都市再生に向けた施策推進(事業群①)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度に策定した「長崎市中央部・臨海地域」都市・居住環境整備基本計画の対象のうち、特に重点的に整備する4エリア(長崎駅周辺、松が枝、まちなか、中央)の整備計画に掲げている施策の推進に向け、県・長崎市の関係部局と情報共有や意見交換を行いながら計画の推進を行っている。</li> <li>・長崎駅周辺エリアでは平成27年3月に県と長崎市で「長崎駅周辺エリアデザイン指針」を定めている。本指針に基づき、建築物のデザイン調整や広場・歩行者動線といった都市機能に関する調整を行っている。</li> <li>・国内や海外からの交流人口を拡大するため、様々な実施事業者との情報共有や協議、調整を進めて計画を推進していくことが必要である。</li> </ul>	
<p>iii) 魅力ある都市景観の形成に向けた質の高い施設整備の推進(事業群①)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎港周辺では、長崎水辺の森公園、松が枝国際観光船埠頭、都市計画道路浦上川線など、環長崎港地域アーバンデザイン会議等でデザイン検討を行った質の高い施設が数多く完成しており、土木学会デザイン賞やグッドデザイン賞などの全国的な顕彰を受け、総じて高い評価を得ている。また、現在も新県庁舎や新県警本部庁舎といった大規模施設の建設が、環長崎港地域アーバンデザイン会議等でデザイン検討を行いながら進められているところである。</li> <li>・今後も長崎港周辺におけるプロジェクトについてデザイン検討を行い、質の高い施設を整備することで、魅力ある都市景観の形成と、県民の生活環境向上や交流人口の拡大に寄与していくことが必要である。</li> </ul>	
<p>iv) 県庁舎跡地活用に関する整備の推進(事業群③)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度は、具体化に向けた取り組みとして、県内外の有識者等へのヒアリングや関係団体との協議を計15回、長崎市との協議を計15回実施し、「広場」「交流・おもてなしの空間」「質の高い文化芸術ホール」の3つの方向性を中心に検討を進めていくことを示した。</li> <li>・一方で、長崎市によるMICE機能を中核とした複合施設整備を含めた周辺の大型プロジェクトの検討状況並びに市議会の審議の動向を慎重に見極め、跡地との機能分担を整理する必要がある。</li> </ul>	

2. 27年度取組実績

取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(上段:実績、下段:計画、単位:千円)			事業概要		指標(上段:活動指標、下段:成果指標)					事業の成果等	中核事業		
			H27実績	一般財源	人件費(参考)	事業対象	事業内容 (事業の実施状況)	指標	主な目標	H27目標	H27実績	達成率				
			H28計画	一般財源	人件費(参考)					H28目標	—	—				
取組項目 i	長崎駅周辺連続立体交差事業促進費	H19-	51,760	27,131	11,278	鉄道高架区間の道路利用者	デザイン検討会議において、長崎駅舎の設計に反映させるための「長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画」を策定した。	活動指標	H27:調査・設計項目数	2	3	150%	長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画を策定したことにより、JR長崎本線連続立体交差事業において整備する長崎駅舎の設計を進め、事業の推進に寄与した。	○		
			H28:鉄道事業者との協議回数	10	—				—							
	都市計画課	H19-	119,500	56,000	11,291	鉄道高架区間の道路利用者	H28:長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画テーマの達成項目	成果指標	H27:高架本体工事着工	20	35	175%				
			H28:長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画テーマの達成項目	0	—				—							
	長崎駅周辺連続立体交差事業(公共)	H21-	3,015,690	62	—	鉄道高架区間の道路利用者	H28年度から本格的な高架橋本体工事に着手するため、仮線切替工事が完了した。	活動指標	工事説明会の開催回数	—	2	—			H28年度から本格的な高架橋本体工事に着手するための仮線切替工事が完了し、事業の推進に寄与した。	○
			都市計画課	4,059,000	37				—	3	—	—				
	長崎駅周辺連続立体交差事業(単独)	H22-	100,950	31	4,028	鉄道高架区間の道路利用者	H28年度から本格的な高架橋本体工事に着手するため、仮線切替工事が完了した。	成果指標	事業進捗率(%)	—	36	—				
都市計画課			115,650	49	4,033				42	—	—					
都市計画事業県費補助金(区画整理、再開発)	H21-	82,300	237	0	長崎市、諫早市、長与町	新幹線駅周辺などにおける土地区画整理事業及び市街地再開発事業の整備に対し、事業費の補助を行い、都市基盤施設の整備を促進した。	活動指標	補助申請件数	—	3	—	新幹線駅周辺などにおける土地区画整理事業及び市街地再開発事業の計画策定や整備が進捗し、魅力的なまちなみや都市基盤の整備の促進が図られた。	○			
		都市計画課	211,939	168				0	3	—	—					
都市再生推進事業	H21-	8,264	4,998	16,112	県、長崎市、民間事業者	策定した整備計画に掲げる施策について、関係部局と情報共有や意見交換を行った。また、長崎駅周辺の都市機能を含めたデザイン調整を行った。	活動指標	長崎駅周辺エリアデザイン調整会議の開催回数	2	2	100%	関係部局と情報共有や意見交換を行うとともに、長崎駅等のデザイン調整を通じて、交流人口の拡大に向けた機能的な都市空間の創出が可能となり、都市再生に向けた施策の推進に寄与した。	○			
		まちづくり推進室	7,038	7,038				14,517	成果指標	デザイン調整が整った施設数の累計	3			3	100%	
取組項目 iii	環長崎港地域都市再生調整事業	H12-	10,232	10,232	7,250	国、県、長崎市、民間事業者	環長崎港地域アーバンデザイン専門家会議を開催し、長崎港周辺で整備される施設のデザイン検討を行った。	活動指標	アーバンデザイン会議等の開催回数	15	26	173%	新県庁舎、新県警本部庁舎の外装や防災緑地のデザイン検討を行い、魅力ある都市景観の形成に向けた質の高い施設整備の推進に寄与した。	○		
			まちづくり推進室	13,610	13,610				6,452	成果指標	アーバンデザイン会議等の検討を経て完成した事業数	1			3	300%
			まちづくり推進室	13,610	13,610				6,452	2	—	—				
取組項目 iv	跡地活用検討経費	H21-	2,207	2,207	24,974	県、長崎市	平成27年度は、有識者等へのヒアリングや先進事例調査、長崎市との協議を行うなどの検討を行った。	活動指標	県議会等への整備進捗状況の報告回数(回)	—	4	—	2月定例会議において、「広場」「交流・おもてなしの空間」「質の高い文化芸術ホール」の3つの方向性を中心に検討を進めていくことを示した。	○		
			まちづくり推進室	19,041	19,041				29,034	成果指標	基本構想に着手	数値目標なし			—	—

### 3. 検証及び問題点の抽出

<p><b>【課題解決に向けて取り組んだ事務事業の実績の検証】</b></p> <p>i) 高架橋工事の整備を行う一方で、長崎駅は新幹線・在来線双方が乗り入れる日本唯一の頭端駅であり、海に開かれた駅としては世界にも類を見ない特長を有しているため、長崎の玄関口にふさわしいデザインの基本的な考えを示した「長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画」を平成27年度末に策定し、今後本計画を最大限具現化するため鉄道事業者と費用負担や維持管理等について調整を行う必要がある。また、平成28年度より本格的な高架橋工事に着手するため、仮線切替工事が完了し事業促進が図れた。</p>
<p>ii) 4エリアの整備計画に基づき様々な事業者の事業計画が進んでいる中で、特に長崎駅周辺においては駅舎、駅前広場について整備が進められており、「長崎駅周辺エリアデザイン調整会議」を通じて事業者間の調整や情報共有を図ることができている。長崎の陸の玄関口である長崎駅の駅前広場については今後検討が深度化されるため、県民が親しみを持ち使いやすいものになるよう県民意見を取り入れていくことが必要である。</p>
<p>iii) 長崎港周辺では、水辺の森公園や松が枝国際観光船埠頭といった港の景観に調和した施設が完成しており、現在建設中の新県庁舎や新県警本部庁舎についても計画・設計段階から施工段階に至るまで詳細なデザイン検討を行い、質の高い施設の整備に取り組んでいる。今後も魅力ある都市景観の形成に向け、長崎港周辺で整備される施設についてデザイン検討を行う必要がある。</p>
<p>iv) 総合計画の期間内である平成32年度中の工事着手を目指し、県議会の意見を伺いながら、また、県内外の有識者等へのヒアリングや地元長崎市と定期的な協議・意見交換を重ねながら、整備方針をとりまとめ、基本構想の着手に取り組むたいと考えている。 長崎市によるMICE機能を中核とした複合施設整備を含めた周辺の大型プロジェクトの検討状況並びに市議会の審議の動向を慎重に見極め、県庁舎跡地との機能分担を進めていく必要がある。</p>



### 4. 29年度実施に向けた方向性

【問題点解決に向けた方向性】	【個別事務事業の見直し】			
	事務事業名	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
i) JR長崎本線連続立体交差事業及び及び新幹線駅周辺等における市街地開発事業の推進 今後整備される長崎駅舎について、平成27年度に策定した「長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画」を最大限具現化するため、鉄道事業者と費用負担や維持管理等について調整を行っていく。また、他事業と調整を図りながら事業推進を図る。	長崎駅周辺連続立体交差事業促進費	—	平成27年度に策定した「長崎駅舎・駅前広場等デザイン基本計画」を最大限具現化するため、鉄道事業と調整しながら推進する必要がある。	現状維持
	長崎駅周辺連続立体交差事業	—	JR長崎本線連続立体交差事業は、国際観光文化都市長崎の玄関口としてふさわしいまちづくりのために、九州新幹線西九州ルートや長崎市の事業である長崎駅周辺土地区画整理事業と調整を図りながら一体となって推進する必要がある。	現状維持
ii) 新幹線開業に向け整備される駅舎や駅前広場等の事業について、長崎の玄関口にふさわしい都市機能と調整された都市空間を実現するため、様々な事業者間の情報共有や協議、調整を行っていく。	都市再生推進事業	—	4エリアの整備計画を策定し、その目的に向かって県と長崎市等で役割分担しながら進めている。長崎駅周辺においては、駅前広場デザインについて平成28年度から市が行うシンポジウムやワークショップにおいて県も協力しながら県民の意見をきく予定であり、その民意を取り込んだ駅前広場デザインについて、長崎駅周辺エリアデザイン調整会議でデザイン調整していくなど、今後も整備計画で掲げている都市機能の実現に向けて、中長期的に進めていく必要がある。	現状維持
iii) 長崎港周辺では、今後も複数のプロジェクトが予定されており、魅力ある都市景観の形成のため、引き続きデザイン検討を行っていく。	環長崎港地域都市再生調整事業	—	長崎港周辺では、出島地区におけるオフィスビルの建設や松が枝岸壁の2パース化が計画されており、質の高い施設を整備するには、今後も計画段階から施工段階に至るまで詳細なデザイン検討が必要である。	現状維持
iv) 活用策の骨格となる部分を整備方針として取りまとめるため、県内外の有識者や民間企業者へのヒアリング、関係団体や地元長崎市との協議を重ね、県議会等において整備の進捗状況を報告する。平成28年度は整備方針をとりまとめ、平成29年度は基本構想の策定及び設計に向けて取り組んでいく。	跡地活用検討経費	—	これまでの検討経過を踏まえて、具体的な取り組みを進めていく段階に入ったところであり、その後の取り組み内容次第で必要な見直しは行っていく。	現状維持